はじめに

住民たちが自らの足元を見つめ、生活の場である地域のありようを考える基となるものが資料館や博物館です。小中学校の社会科の学習では、地域の博物館・資料館の活用や連携を図り、子どもたちが実際にそこへ出かけて体験学習や調べ学習をする授業展開が必要とされます。残念ながら越谷市内には、そのような施設がない状況です。かつて旧見田方遺跡公園内あった郷土資料収納館は、レイクタウン地区の区画整備にともない廃され、収蔵資料類の多くが旧荻島公民館に保管されたままであり、その公開・活用が求められています。一方、大間野町・旧中村家住宅は、保存民家として整備が進められ、一般に広く公開されています。越谷市が保管している貴重な歴史民俗資料や保存民家の市民への有効活用を図るため、越谷市教育委員会生涯学習課と文教大学教育学部社会専修の協働により、大間野町・旧中村家住宅内の一部施設を利用して、「古い道具と昔のくらし」の展示を作成することになりました。特に今回の展示は、小学校３年・４年生の地域学習の単元「古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子」の学習で活用することを目的としました。本冊子は、主要な展示品および保存民家のつくりに関する解説です。今後は社会科の授業で、これら展示を活用するための事例案や調べ学習のワークシートなどを作成して、別冊子で提示していく予定です。

展示製作にあたっては、文教大学教育学部社会専修の学生 11 名を中心に、2016 年 8 月 30 日から 9 月 3 日まで旧中村家住宅で、農具民具類の整理調査を実施しました。その調査を踏まえ展示品を選定、キャプション作成を行いました。この協働事業の実施にあたっては、越谷市教育委員会生涯学習課文化財係の皆様に全面的なご協力いただきました。さらに、越谷市文化財調査委員各位にご協力・ご指導をいただきました。板垣時夫氏には埼玉県東部の低地における伝統的な農業や民俗等について専門研究をご教授いただきました。栗田孝夫氏には、学校現場で教鞭を執られている視点を踏まえて、社会科単元と連動させた展示構成のありかたについてご提言・ご指導をいただきました。今回は栗田氏のご提言をすべて実現することができませんでしたが、今後、学校現場をはじめ各方面のご意見・ご指導を仰ぎながらさらなる展示の整備・充実を行う予定です。長島正弘氏には、長年、郷土資料収納館の運営にたずさわってきた知識・経験をもとに、資料類の所在・活用方法についてご意見・ご支援をいただきました。村田三恵氏には、具体的な整理調査計画の立案や、関係者・関係諸機関との連絡・調整はじめとする協働事業の実務を担当していただきました。さらには民俗学に対する専門性、各地での豊富な学芸員活動を踏まえての学生への指導とともに、残暑の厳しい中で一緒に汗を流して整理調査あたっていただきました。村田氏のご尽力によって協働事業の実現が可能となりました。ここに改めてご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。本格的な資料館・博物館の展示には及びませんが、小学生がこの保存民家に訪問し、古い道具やそれを使用していた暮らしの様子を調べ、体験する学習活動を行い、さらに教室に持ち帰って社会科の学習に少しでも活用していただければ幸いです。

文教大学 教育学部社会専修　六本木健志

目 次　　頁

1　旧大間野村と中村家について　1
2　生活の道具　5
3　農具　～季節ごとの農作業（稲作）～　16
4　信仰　～屋敷に祀られる神々～　26
5　家屋と部屋のつくり　35